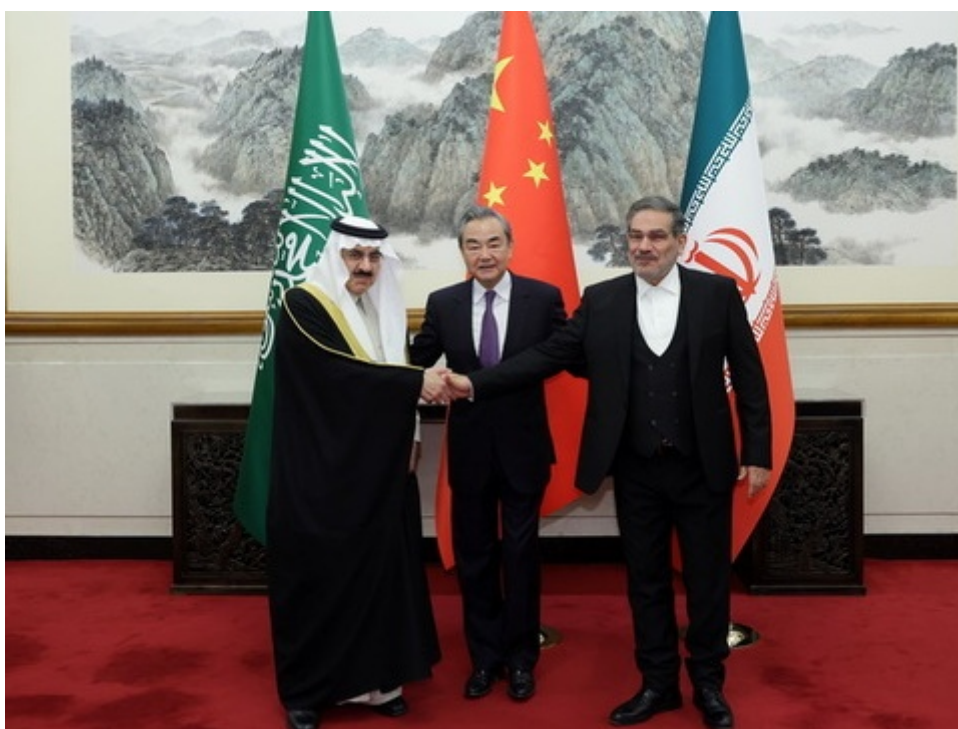


サウジアラビアとイラン、国交再開と大使館再開に合意 王毅「中国は建設的な役割を果たし続ける意思がある」

<https://www.globaltimes.cn/page/202303/1287076.shtml>



中国、イラン、サウジアラビアの三国は、3月10日に共同声明を発表し、「イランとサウジアラビアが、2ヶ月以内に関係を再確立し、大使館を再開することに合意した」と発表した。

このニュースは10日夜に発表され、世界中の注目を集めた。長年の敵対関係にあったイランとサウジアラビアが二国間関係を改善する上での突破口になると見られている。アナリストには、「世界的に不確実性が高まる中、紛争の平和的解決を目指す三国の努力を賞賛したい」との声が上がっている。

以下本文

中国共産党（CPC）中央委員会外事弁公室主任の王毅は、3月10日に、イラン最高国家安全保障会議のアリ・シャムハニ長官が率いるイラン代表団と、サウジアラビアの国務大臣・閣僚理事・国家安全保障顧問であるムサード・ビン・モハメド・アル・アリバンを団長とするサウジアラビア代表団とのあいだで会議を開催した。

会談後、共同声明が発表された。

3カ国の共同声明によると、イランとサウジアラビアは、2ヶ月以内に外交関係を再開し、両国の大使館や機関を再開することに合意した。両国の外相は、この決定の実行を目的とした協議を続け、大使の交換に必要な手配を行うことになっている。

両国は主権の尊重と相互の内政不干渉を強調した。また2001年4月17日に締結された「安全保障協力に関する協定」を実施することに合意した。

また、1998年5月27日に締結された、「経済、商業、投資、技術、科学、文化、スポーツ、青少年の分野における関係の促進を目的とした一般協定」を実施することに合意した。

両国はまた、それぞれの懸念に対処するためのタイムテーブルを概説することで、フォローアップ作業の基礎を築いた。

3カ国は、地域と国際の平和と安全を強化するためにあらゆる努力を払うという強い決意を表明した。

王毅は両国が二国間関係の改善において「歴史的な一歩」を踏み出したことに祝辞を述べた。

王は同日、記者団に対し、北京で行われたイランとサウジアラビアの会談は重要な成果を収め、対話と平和の勝利であり、不穏な世界に非常に良い知らせをもたらしたと述べた。

王はまた、この成果は、ウクライナ危機が世界の唯一の問題ではなく、平和と人々の生活に関わる多くの問題があり、世界的な関心と適切な対処が求められているとのべ、三国合意はこのことについて、「どんなに複雑で茨の道であっても、相互尊重の精神を保ち、対等な対話を求めることで、解決に至ることができる」という明確なシグナルを送ったと指摘した。

王はまた、「中東は地域の人々のものであり、地域の運命は地域諸国の人々の手にしっかりと握られているべきだ」と強調した。

.....

この発表について、蘭州大学「一帯一路」研究センターの朱エグゼクティブディレクターは、Global Times に語った。

イランとサウジアラビアの関係が改善されることは、この地域とイスラム世界だけでなく、世界にとっても非常に重要である。彼らは協調を強化することで、より安定した、平和で豊かな中東を築くことができる。

世界がロシアとウクライナの紛争の影響をまだ感じている中、両国の国交回復は中東に確実性を注入し、平和と発展への信頼を高めるものである。これが突破口となって、この地域にシナジー効果をもたらすかもしれない。イランとサウジアラビアは、国交回復によって中東の平和への扉を開いた。紛争を対話によって解決する模範を示した。より多くの地域諸国がこれに倣い、敵対的な外交政策を改め、より包括的な精神で協力の可能性を模索し、地域発展の余地を生み出すことを期待する。

王毅は「イランとサウジアラビアの信頼できる友人として、中国は建設的な役割を果たし続けたいと考えている」と述べたが、この対話は、グローバル・セキュリティ・イニシアティブの成功例となるだろう。両国外相は会議を主催し推進した中国に感謝の意を表明した。そして、近隣諸国を強化し、地域の安定を共同で守るために、会議で得られたコンセンサスを実行する意思があると述べた。

中国は、親切で信頼できる仲介者として、ホスト国としての責任を果たした。今後も建設的なプレーヤーとして、世界の過熱した問題の適切な処理を促進していこう。

朱は語る。「今回の合意は地域と世界における中国の影響力の増大を浮き彫りにするものである。しかし対外的には、このような前向きな改善を望まない国もあるだろう。地域の紛争を処理するに当たっては対話と交渉の継続を求め続け、干渉の可能性に警戒する必要がある。